

くまもと経済

表紙の人
Cover Story

細江 守紀
熊本学園大学学長
「学生第一主義」で満足度を高める大学へ

1 2021
月号

VOL.475

必読

業界・分野トップに聞く熊本の2021年

熊本展望

2021

KUMAMOTO 新春グラビア

2021 コロナと生きる熊本の

チカラ

広告企画 2021新春誌上名刺交歓 / 熊本学園大学同窓会・志文会特集

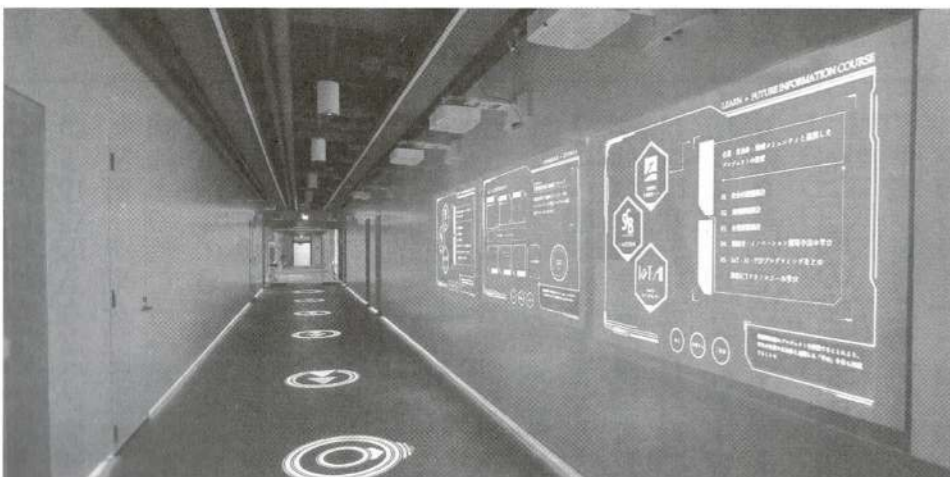


なかやま みねお／熊本市出身、1947（昭和22）年9月22日生まれ、73歳。熊本大学工学部卒。71年積水化学工業入社。80年（学君が）淵学園に入職。2003年（学君が）淵学園理事長、崇城大学学長、（学君が）淵学園理事長

「知能情報コース」、電子通信コースに改編しました。20年度後期からは文科省が推奨している「数理データ・サイエンス」の講義を全学科で開始し、これからのデジタル社会を生き抜くために必要となる技術を身につけていきます。また、学部学科の改編に併せてIoT・AIセンターの運用も始めました。当センターではIoT・AIの実践的なプログラミングを学ぶことが可能で、高度な情報通信技術を習得できるようにしています。ただ、コロナ禍で開所式が実施できていませんので、21年春に実施できればと考えています。

一方、コロナ禍で経済情勢が悪化しました。就職状況はどうかですか。中山 20年11月までは前年度の就職率から7〜8ポイント下回り、どうなるかと心配していましたが、しかし、就職課を中心に進路が決まっていなかった学生一人一人に対して指導し、19年12月の就職率に届くまであと一歩というところまで来ました。ただ、20年はコロナ禍という状況下になったことで、各企業の採用方法や企業研究などリモートが活用され、前例のない就職活動になったことで戸惑った学生は多かったようです。もちろん、企業側も採用活動を制限され、厳しい状況であることに変わりありません。その中でも学生は柔軟に対応し、自分の進路を決めています。

なかに、コロナ禍で加速したエドテックをさらに推し進めつつ、効果のある教育を模索していききたいと思えます。20年はコロナ禍を機に、教育現場だけでなく企業もリモートワークといったデジタル化が浸透し、働き方が変化しました。社会全体がデジタル化に舵を



▲情報学科棟1階にあるIoT・AIセンターの内部。全ての学生が高度な情報通信技術を学ぶことができる

業務課題はDXで推進。最後に2021年の展望。中山 高速インターネットやクラウドサービス、AIなどといった情報技術で仕事の効率を上げるデジタルトランスフォーメーション（以下、DX）に力を入れたと考えています。その先駆けに、20年は学内でDX本部を立ち上げ、若手の事務職員を中心にワーキンググループを作り、その職員たちが業務に関する課題をリストアップしたものを21年以降は一つずつクリアしてDX化を推進していききたいと考えています。

切った今、デジタル社会に対応できる人材の育成は非常に重要です。そうした人材を育成していくためには教育現場がより早くデジタル化に対応していく必要があります。本学ではまず、学内のデジタル化をいち早く完成させ、デジタル社会に強い人材の育成に尽力していききたいと考えています。（森口浩那）

コロナ禍でDX加速、迷走した大学教育に見えた道筋

「学生の心に火をつける」教育を使命に総力結集

中山 峰男 崇城大学学長

オンデマンド授業の迷走

2020年を振り返って。中山 コロナ禍に対応しうる教育を模索した1年だったと思います。政府が7都府県に緊急事態宣言を発令した4月7日から5月15日まで、本学は学内への立ち入りを禁止し、学生、教職員に自宅待機をお願いしました。学内への立ち入り禁止を解除した後も人との接触を避けるため授業の方法を変え、年内に予定していた行事やイベントをほとんど中止しました。

授業方法をどのように変えましたか。中山 対面授業からオンラインツールを活用したオンデマンド授業（遠隔授業）に切り替えました。オンデマンド授業は本校でも初の試みです。質の高い授業にするため、週1で新型コロナウイルス対策教学検討委員会を開催し、授業の改善やコロナ禍に対応した教育について話し合ってきました。

その中で出た課題は。中山 1年生の共感性を導き出すことです。ここでの共感性とは、互いに感情を共有しあっ

て構築される関係性のことで、2年生以上はコロナ禍以前の対面授業やイベントなどで学生同士や教職員と人間関係および共感性を築けていますが、1年生に関しては入学式の中止や1カ月にわたる自宅待機でそうした関係構築の機会を逃しています。この共感性がないままオンデマンド授業をしてしまうと、教育テレビを見ている状況と同じになってしまいます。

それに加えて、本学は「学生の心に火をつける」をスローガンに、教職員が持つ知識や人柄で学生の好奇心を掻き立て、主体性を養う教育をモットーにしています。日々コロナ禍で変化する国や市町村の対応や学生アンケートで出た学生の悩みを受け、オンデマンド授業の改善などを新型コロナウイルス対策教学検討委員会で話し合い、コロナ禍に対応した最善策を講じていま

デジタル社会を生き抜く人材育成を強化

崇城大学では今年4月、情報学部情報学科を改編しています。中山 人工知能（以下、AI）

た。中山 1年生には3密を避けた実験実習や、教職員や学生との交流を促しました。オリエンテーションではソーシャルディスタンス（社会的距離）を通常時の3倍確保できる教室を用意し、マスク着用や換気を徹底しつつ、時間をかけて関係性の構築に尽力してきました。一方、オンデマンド授業のメリットは。中山 インターネットやICT技術を駆使した教育（以下、エドテック）が加速したことです。AIやIoTの普及で社会のデジタル化が進む昨今、エドテックは推進されるべき項目の一つでした。本学も今後、対面授業とのハイブリッドでより推進していきたいと思えます。